



精神病態セミナー

強迫関連症の病態と治療

演者：中尾 智博 先生

九州大学大学院医学研究院 精神病態医学
教授

日時 2024年 7月 5日（金） 18:30～19:30（質疑応答含む）

開催方法 Zoomを用いたLIVE型のweb形式

参加費 無料

参加方法 7月4日（木）までに下記URLよりお申し込みください。
精神疾患病態研究部のHPからもお申し込みいただけます。

<https://forms.gle/HC3aV5shpnFVg7Um6>

※事前申込が必要です。

強迫症（OCD）は主に10代から20代に発症し、一旦発症すると強迫観念と強迫行為は不安を媒介とした負のループを形成する。OCDにみられる洗浄強迫や確認強迫の症状は、日常生活、学業や仕事に強く影響し、持続的な機能障害をもたらす。2013年発刊のDSM-5、そして近日運用開始となるICD-11において、OCDは不安障害から独立し、強迫関連症群の中核疾患となった。その背景にはOCD特有の脳病態メカニズムがあり、治療戦略も他の不安障害とは大きく異なる点がある。今回の講演ではOCDの概略と脳病態メカニズム、治療について演者らが行った研究も含めて解説したい。また、強迫関連症群の概念やためこみ症についても触れたい。

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神疾患病態研究部

橋本亮太 Tel: 042-346-2046（内線6255）